

「2022年度インドネシア大学スプリングスクール（オンライン）派遣参加報告書」

京都大学教育学部2年 魏旻咨

プログラムに参加する前、インドネシアといったアセアン諸国への理解は浅かった。しかし、インドネシアへの派遣留学プログラムへの参加によって、言語に対する鋭敏さや国際理解は深められた。今回のプログラムはオンラインで行われたが、活動や授業は充実していた。現地の先生方や学生たちとの交流や踊り、料理などの文化体験によって、オンラインでもインドネシア文化やインドネシア言語を興味深く味わえた。

ある国・地域の文化を理解するために、現地の言語を学習してみるのは最も効率的な方法だと考えられる。今回のプログラムでインドネシア語を勉強することを通じ、インドネシアにおける民族や文化の多様性、及びその歴史についてよりよく理解できた。このような経験につき、いつか実際にインドネシアに行きたくなった。その上、インドネシアの豊かな文化や歴史により深い興味を持つことになった。プログラムにおけるインドネシア大学の日本学科の日本語授業への協力や現地学生との共通発表では、インドネシア語だけでなく、英語や日本語で現地の学生と交流することも多かった。言語力がグローバル社会における重要性を実際に体験し、これからも自分の言語力をさらに鍛え、多くの異なる文化的背景を持つ人と交流したいと思う。今後はまたこのような短期留学プログラムがあれば、参加者としても協力者としても積極的に関与したくなった。

今回の派遣地のインドネシアには、多様な民族や文化を持っており、その異なる文化に対する受容力は印象的であった。この二週間にはインドネシア料理や伝統的な踊りなどの文化体験があった。どのような文化体験の活動でも、インドネシアにおける様々な文化が影響し合う要素が見られた。そのような豊かな民族や文化がお互いに受け入れ、活気のあるインドネシア文化は日本と違い、面白いと思う。自分の国である台湾にも多様な民族や文化があるが、お互いにわかり合えるのにはまだインドネシアから学ぶことが多いと感じた。将来大学を卒業し、いつか台湾に帰れば、異なる民族や文化の相互的な理解を促進する力になりたい。同時に、自分はどこの国に行っても、偏見を持たずに様々な文化を受容できていられるように努力したい。

このように、今回の充実していた派遣留学プログラムによって、自分の言語力のみならず、異文化への関心や国際理解も高まったと実感した。将来インドネシアに行く機会があれば、インドネシアの料理や景色を楽しみ、このプログラムで出会った人々と会えるのを期待している。インドネシアについて理解した後、インドネシアの隣国や他のアセアン諸国にも興味を持ち始めた。これからはインドネシアから始め、他の近隣の国についての理解も深めていこうと思う。